

懸念、つぶやく、芸能人

共謀罪「国民から声奪う」

「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ組織犯罪処罰法改正案は成立する見通しになった。多くの疑問や懸念が解消されないまま十四日、与党は審議を打ち切り。委員会採決を省略する「禁じ手」まで使った。「また数の力で押し切るのか」「こんなやり方は異常だ」。安倍政権下での重要法案審議のたびに繰り返される光景に、国会内外では怒号が飛び交い、各地の市民は不安の声を上げた。●面参照



村本大輔さん

「『共謀罪』は声を奪う法律」「真つ平御免」。「表現者」である落語家やタレントら芸能人が、自身のツイッターを通じて反対や懸念の声を次々と上げていく。

「国民から声を奪う法律、共謀罪大反対」とぶち上げたのは、毒舌で知られる、お笑いコンビ「ウーマンラッシュアワー」の村本大輔さん(おおい町出身)だ。「マリ君安トフネットの頃に共謀罪があったらフランス革命は起こってなく

て、いまも独裁の国で貴族は金持ちのまま、庶民は貧しいままだったと思う」と、独特の例えで危険性に突っ込みを入れた。また別の日には「共謀罪、国民が悪いことしないかプライバシーを侵害して監視するなら、国会や政治家のプライバシーこそ侵害させてもらって覗かせてもらいたい」と切り込んだ。

小説など文筆活動でも活躍する落語家の立川談四楼さんも反対し、その理由について「戦中、時局にふさわしくない」と落語やレコードに検閲が入ったという。落語家は慌てて廊下を始める五十三席を禁演落語として葬ったが、そうなる

のは真つ平御免」と説明。その上で「ただ単に落語を自由に演りたい一点に尽きる。一度やったことはきつとまたやる。我らの学習能力は高くないのだ」と続けている。

このほか、「キッチュ」の愛称で親しまれているタレント松尾貴史さんは「秘密保護法その他とセットで、国民を黙らせる仕組みは完了という状態になってしまふ」と危惧。若者に人気のグループ「AAA」メンバーの歌手日高光啓さんは「トランプ政権以降の国家間、人種間の軋轢や日本でも共謀罪とかになってくると戦争の気配は感じずにはいられない」とつぶやいた。